

新年度を迎えて
創立100周年記念事業についてのご報告
～成蹊学園の新たな創造を目指して～

[CONTENTS]

- 2 創立100周年記念事業 専務理事あいさつ
- 3 新年度を迎えて 学長・校長あいさつ
- 6 桃李の人々
- 9 中村春二評伝DVD完成
- 10 創立100周年記念事業募金局からのご報告
- 12 大学の近況
- 14 中学・高等学校の近況
- 15 小学校の近況
- 16 2005年度予算の概要
- 17 健康支援センターから
- 18 2005年度 入学試験状況
- 19 役職者／連絡先一覧
- 20 学校行事予定(4月～6月)／学園史料紹介

大学情報図書館完成イメージ図



創立一〇〇周年記念事業

—成蹊学園の新たな創造に向けて



成蹊学園将来構想検討委員会委員長
成蹊学園 専務理事

加藤 節

な内容を付け加えることにより、成蹊学園の社会的価値を更に高めることを大きな目的にしているからです。私どもが、今回の事業を「新・成蹊創造プラン」と名づけた理由もそこにあります。

皆様方には成蹊学園のためにさまざまな御協力を賜り、心から御礼を申し上げます。さて、私どもは、現在、二〇一二年に迎える学園創立一〇〇周年を指して、数多くの記念事業を展開しております。その目的や進捗状況について皆様に御報告し、併せて、学園に対する一層の御理解と御支援とをお願いしたいと存じます。

成蹊学園は、長い伝統の上に教育機関としての確固たる評価を築いてまいりました。しかし、いかなる組織も、時代の変化に合わせて改革していかなければ競争力を維持することはできません。今回の記念事業は、そうした視点に立って構想されたものでした。それは、従来の学園に時代に即応する新た

な内容から、私どもは、まず、昨年四月に、学園を挙げて国際理解能力とコミュニケーション能力とを育成し、多面的な国際交流を推進するための学園縦断的な機関として「国際教育センター」を開設いたしました。全国でも例のない同センターの設立によって、戦時下でも英語教育を絶やさず、早くから「国際学級」を開設する等、国際化に積極的に取り組んできた成蹊学園の評価を更に高めることができると考えております。また、小学校では、全国の私学に先んじて、本年度から段階的に二十八人学級制に移行することいたしました。学園創立者中村春二先生以来の少数教育の理念に忠実に二十八人学級制を導入することによって、児童一人一人がもっている豊かな個性を引き出す行き届いた教育が今まで以上に可能になるものと期待しております。中学・高等学校においても、現在、中高一貫化の強化を柱とする将来構想の策定作業が精力的に進められております。そこでもまた、確かな学力と幅広い教養との習得を

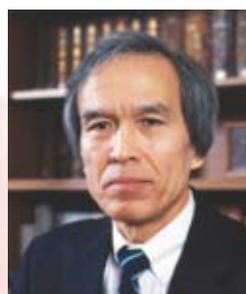
可能とする一貫した教育体制のなかで、生徒一人一人が自分の個性や資質を自ら発見する機会を作り出すことが目指されています。「個性をもった自立的な人間の創造」を目指すこうした教育面での改革に併せて、小学校・中学・高等学校とともに、新しい教育体制に見合う校舎の新築を予定しております。その場合にも、画一的な教育のための無味乾燥な建物ではなく、児童・生徒が自由でのびやかに活動できる空間を備え、かつ、成蹊学園の豊かな自然環境と落ち着いた雰囲気とにマッチした美しい建物を建てようと考えております。

更に、大学では、昨年十二月、情報化時代にふさわしいインテリジェント機能を備えた情報図書館の新築事業が開始されました。成蹊出身で国際的に活躍されている建築家坂茂氏の基本設計による新図書館が、長く成蹊の歴史に残る芸術性豊かな建物となり、また、卒業生や学園関係者だけでなく、地域に対しても開かれた「知の拠点」となることを期待したいと思えます。また、大学では、情報図書館の新築とならぶもう一つの大きな施策として、昨年四月に法科大学院が開設されました。学園としましては、専門職養成大学院としての法科大学院の成功が成蹊大学全体の社会的評価の向上につながることに鑑みて、今後とも法科大学院の強化に努めたいと思っております。更に、学園は、本年から、橋本竹夫専務理事補佐を委員長とする委員会を立ち上げて、一〇〇周年記念事業の一つの柱である

学園環境の整備事業に本格的に着手いたしました。学園緑化、体育施設の整備を推進するとともに、エネルギー消費等にも配慮して、地域環境の維持・改善に貢献する新しいキャンパスの創造を目指したいと考えております。

このように、新たな成蹊学園を創造しようとする意図の下に始められた一〇〇周年記念事業は順調に進捗しております。しかし、その事業をより確実な軌道に乗せるためには、財政基盤の更なる強化が不可欠であります。その点に配慮して、学園は、この数年、人件費を中心とする支出の縮減や基金の積み上げ等、記念事業を着実に実施するための財政的な措置を積極的に講じてまいりました。しかし、少子化や補助金の削減を背景に学園の帰属収入が通減傾向に入っている現在、学園独自の努力に限界があることも事実であります。そうした判断に立って、私どもは、一〇〇周年に向けた募金事業を始めさせていただきました。現在までに、多くの卒業生、三菱金曜会や学園に関係する企業からの御協力によって十六億円を超える募金をいただいておりますが、五十億円の目標額を達成することは困難な状況がなお続いております。そこで、厳しい経済状況の折に誠に心苦しい限りではありますが、学園の財政基盤の強化のために、そして何よりも募金を通して皆様方に成蹊学園の新たな創造に参画していただくために、是非とも募金事業に更なる御協力をいただきたく、伏しお願い申し上げます。

新年度を迎えて



学長
栗田 恵輔

四月を迎え、自然環境に恵まれた成蹊のキャンパスはいつそう輝きを増しています。その中をいきいきと歩いている新入生を見ると、フレッシュな雰囲気は圧倒されます。初心を忘れず、理想に向かって突き進んで欲しいと願っています。

学生に接していると、いろいろな点でスマートになってきていると感じますが、学生気質は本質的にそれほど変わっていないようです。それぞれの方法で努力して成長し、四年後には次のステップに大きく飛躍していきます。目標をはっきりと絞りきれずに入学してくる学生も見受けられますが、これは特に最近の傾向というわけではありません。興味をもてる科目、夢中になれる対象を早く探しあてて欲しいと思います。

最近、学生の基礎学力がよく問題にされます。確かに以前に比べると、平均的には低下しているという印象を受けます。基礎学力に対する考え方にはいろいろありますが、

要は、論理的に考え、課題を設定し、問題を発見・解決する力であると思っています。コミュニケーション能力の不足も話題になるとおりで、社会に出てからも大きな障害になる可能性があります。

大学生に求められるこのような基本的な力をつけさせるためには、教員が学生に手をさしのべ、懇切にねいに指導する必要性がますます高まっています。授業形態、学生指導などの面での改善を重ねています。今後も教育の質をさらに高めることに努め、豊かな知性と教養をもった人材を社会に送り出したいと思っています。

しかし、経済的な停滞が長引くにつれ、学生の意識にも変化の兆しがあらわれてきているのは注目すべき現象です。以前に比べて就職するのが容易ではなく、また、就職したあとも厳しい状況が続くため、学生時代に力をつけておくことが不可欠であるとの認識が学生のあいだに浸透しつつあります。そのため、授業を受ける態度にも緊張感が感じられます。

就職状況は全体的に見ると悪いですし、大きな改善は見込めません。しかし、おかげさまで、成蹊大学は就職率の点で、また、人気企業に就職する割合の点で非常に高く評価されています。就職特集を組む雑誌などでは、常に上位にランクされています。実際、昨年度の内定状況はその前年度よりもさら

によくなりました。昨年十月一日時点での内定率は八十一％であり、前年度の六十八％を大きく上回りました。成蹊の全人教育の成果、および、先輩諸氏の活躍のおかげです。

就職に対してはこれまでも強力な支援体制をとってきましたが、今後の課題はキャリア教育を大きな柱とすることであると思っています。自己分析や自己理解を深めることにより、将来の目標、キャリア形成などについて具体的なイメージをもつてもらうためです。なぜ大学に入ったのか、何のために勉強をするのか、在学期間中に何をすべきか、仕事に就くとどのような意味があるのか、といった根本的なことを考え続けることが必要です。現在は経済学部のみが正規科目として「キャリアプランニング」を設置していますが、この取り組みを全学的に広げる予定です。

成蹊大学は大きな変革期の中にあります。その概要をご紹介します。昨年度は法科大学院を開設し、充実した教育体制を実現しました。経済学部では二学科を一学科に統合した上でコース制を導入しました。工学部ではハイテク・リサーチ・センターを発足させ、先端的な学際研究の拠点を確立しました。また、法学部、文学部では国際化と情報化に対応するためにカリキュラムを大きく変えました。これらの取り組みはいずれも順調に効を奏しつつありますので、今後の成果に期待していただきたいと思えます。

今年度は工学部を理工学部へ改組し、新たに発足しました。これまでは縦割り五学科制(機械工学科、電気電子工学科、応用

化学科、経営・情報工学科、物理情報工学科)で教育・研究を行ってきました。しかし、今後の知識社会への急速な進展を見ずえると、基礎教育の充実が必須になるとともに、従来の境界にはとられない柔軟な発想を可能にする教育がますます重要になると予測されます。このようなことを考えると、これまでの専門課程別の組織では限界があるため、三つの学際分野に編成し直すのが最善であるとの結論に達しました。その結果、教員の再配置を行い、物質生命理工学科、情報科学科、エレクトロメカニクス学科を立ち上げました。新学部においては徹底した学部教育が実現できるばかりでなく、教員もこれによって新たな活力を得るものと確信しています。

大学情報図書館の建設も始まりました。二〇〇六年秋からの開館をめざしています。この図書館は、通常の図書館機能に加えて先進的な情報機能を十分にもたせた高度な情報図書館であり、大学における勉強、研究の中核となるものです。

大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。少子化がいつそう進み、ほとんどの大学において受験生の数が大幅に減少している中で、本学では昨年度まで漸増傾向にありましたが、今年度の受験者数は昨年度比八十八％に減少しましたので、危機感を強めています。今後、教職員が一体となって改革をさらに進めて教育・研究の両面において充実をはかり、成蹊大学の存在価値と競争力を高めるべく努力をする所存です。ご理解、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

新年度を迎えて



中学・高等学校長

谷 正紀

成蹊学園の桜とともに、新生を迎える季節となりました。少子化時代といわれ中学校、高等学校の就学人口が年々減少傾向にある中、成蹊中学校では前年に比し志願者の数は伸びています。高等学校については若干の減少は見られるものの過去五年間の平均を上回っております。これは学校説明会などの対外活動強化の結果が現れているとともに、成蹊教育への社会的な評価が根強いものと感じており、ひとえに卒業生ならびに在校生保護者の皆様のご支援の賜と感謝しております。入学された生徒の皆さんは厳しい選抜にもかかわらず難関を突破され、今後の学校生活での活躍を大いに期待しております。

また、成蹊高校生の大学進学のうち、成蹊大学への推薦入学については、今年度は百三名で前年に比べ十七%増大しており

ます。百名を超えたのは二〇〇〇年以來五年ぶりのことです。この人数は卒業生の約三十三%にあたり、この二年で八ポイント以上増加したことになります。一昨年来の進路指導の充実、成蹊大学教員による模擬授業の実施、大学講義の聴講制度の実施と所定の手続きを取れば成蹊大学進学時には単位を先取り認定する制度など、高校と大学との連携の活発化の成果が出ているものと考えています。外部大学への進学についても生徒の多様な個性を活かし、さまざまな分野へ進学しております。

さて、教育界のみならず広く世界と時代を見て今今は大転換期にあるといわれています。日本もバブルの崩壊を機として大きな時代の転換期にあります。かつて明治維新で政治も経済も、社会も組織も、個人の生活も何もかも全く変わってしまったように。このような時、新しい時代、新しい社会を作るのは「人」です。そこに人づくりが重要となります。教育改革が叫ばれているのもそういった背景があります。機会あるごとにお話していることですが、これからの時代に期待される社会人像として「自己開拓力」、「グローバルに活躍できる全人格像」、「チームワークとリーダーシップ」を挙げてきました。成蹊の建学の理念を未来に活かしながら、こういった人間を育成するため私たちは成蹊中学・高等学校

の将来に向けての教育のビジョンを示しました。誇りを持って社会の発展に貢献できる人間を育成するため「グローバルに認知される教養と個性の育成」、「協調性のある自立精神と自律的行動力の育成」、「知的好奇心と科学的探究心の育成」をビジョンとして掲げ、その教育として一貫教育、全人教育、個性伸長教育の三本柱を一層充実させていきます。具体化にあたっては学校内に将来構想準備室を設け、その中に一貫教育、全人教育、入試法・進路指導法、国際教育、施設再開発などについてテーマごとに調査、施策検討、学校内の意思疎通、学園内外の関係機関との調整を行っております。施策は、その性格上、二つに大別されます。一つは枠組み(システム)であり、他の一つは教育の本身です。枠組みは一貫教育の充実、国際教育の充実などの見地より中学・高等学校の生徒数の配分、クラスの設定員、国際学級の位置付けなどについて見直していく計画です。また、中学・高等学校の校舎についても、新しい教育の枠組みとの関連で再開発を計画しています。具体的には学園の将来構想検討委員会の下に「中学・高等学校施設再開発準備委員会」が設置され、将来に向けての中学・高等学校の教育体制を反映した施設再開発の具体的な検討を行うことになりました。もう一つは教育の本身です。これは「期待される社会人像」で示したような能力をどう育成するかについて、成蹊の伝統である幅広い分野の学習と全人教育を基盤として、十二歳から十八歳の多感な年齢での生徒

の成長に応じメリハリをつけた教育の充実を目指すべく教職員全員で取り組んでいきます。学習面については、最近社会でも問題となっている学習態度・意欲、学力向上、将来の進路への自覚が鍵と考えます。これには一貫教育、国際教育、全人教育、進路指導などの多くのテーマが複雑に絡みまします。もちろん、学力ばかりでなく自己開拓力、どんな環境でも生き抜き力、倫理観、日本の文化や歴史を知り、グローバルにそれぞれの地域の文化、歴史、人の考え方を理解を示し行動できる力の育成が重要です。国際教育とはコミュニケーション力の育成、国際交流などとともに、こういった人を育てることでもありと考えています。また、部活動などは教育的見地で見れば、しつけ、自立、自律、倫理観、チームワーク、協調性などの育成に関連し、全人教育の面から検討が進められております。

いま教育界は改革が進んでおり、成蹊のみがその潮流の例外とはなり得ません。成蹊は伝統校ですが、「伝統」とは時代時代の社会の評価です。いつの時代でも、その時代を担った人が時代の趨勢や社会情勢を見極め、将来を洞察し、魅力や競争力を確保していく改革努力が重要で、またそれがその時代を担った人の使命でもあると考えます。情勢は厳しいものがありますが、私も教職員はこのことを認識し、真の「伝統校」を目指す努力を続けますので卒業生の皆様、在学生保護者の皆様のご理解と、忌憚のないご批判とともにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教育者としての趣味を

おもしろみ

心と心が共鳴しあう舞台を



小学校長

岡崎 忠彦

〔斯の道の為に〕より〕

と述べておられます。百人集まれば百通りの個性があります。その一人ひとりの個性の伸張をはかるためには、教師が心から子どもたちの心に迫っていくなければなりません。学校の中で学級という集団を形成するのは、あくまでも「個」を育てるための手段の一つであって、「集団」を育てるために「個」を集めてきたものではありません。互いの個の力を利用しあつて集団だけを育てているのではないのです。

成蹊小学校は九十一年目の春を迎えています。百十二名の一年生と国際学級（四、五、六年生）の十数名と、若さあふれる将来を担う数名の教員を仲間を迎え、二十八名四学級体制が今、少しずつ始動しようとしています（本年度は三年生まで）。

今までの「東」「西」「南」の三学級体制に新しく「北」組を加えて、四方位のすべてが整った四学級体制が完成するのです。各クラスの定員も二十八名と今までよりも十名少なくなり、よりよい少人数教育を志向していくことができます。四方を見渡す。一人ひとりの子どもたちすべてを大切に「成蹊教育」の真髄をより確かなものにしていくことができるのです。

創立者中村春二先生は理想的な教育の姿を、「…：「たい教育といふものは個人対個人のもので、先生一人に生徒一人が理想的である。多人数集って團體的修養も必要であろうが、それ等の事は大した重大なことではなく、児童啓蒙の為に一人対一人が尤もやりよいのである。」

育の徹底は期せられないのである。…：〔斯の道の為に〕より〕

と述べておられます。この論文を発表した大正初期の公教育は、六十人とか七十人という大人数教育が普通に行われた時代です。その時代に中村先生は、初等教育の真のあり方について大胆な論を展開しています。そしてそのお考えは、昭和の戦争前まで貫ぬかれていたのですからすごいものです。中村先生を支え、そのお考えを継承してこられた方々の努力に頭の下がる思いです。そして戦後期の混乱の中で学校経営の側面から、学級定員は徐々に増やさざるを得なかつたようです。そして五十余年の月日が流れました。その流れの中で先輩の諸先生方の努力で、徐々にではありますが、中村先生の考えの原点に回帰していく努力がなされてきたのです。

二〇〇五年の春、中村先生の思いと私たちの思いは繋がりに少人数教育実践の一步を踏み出します。ここに至るまで様々な側面から議論に議論を重ねてきました。実際やってみなければ分からないことも多々あります。不安な思いもあります。しかしそれ以上に「夢の教育」未知の教育への期待感も大きいのです。そしてなによりも、やりぬくための強い熱情があります。

中村先生は、先に触れた論述の中にこんな言葉も残してくださっています。

「…：生徒の心を刺激して、それを向上進歩させるのは完成された人物・学問ではなく、つねに向きあうとする教師の努力と熱情なのである。…：師弟の心の共鳴が最も必要不可欠である。…：〔悟り方圖解〕より〕

と。先生の思いは、今の成蹊の教師の心にも強く響く大切な言葉です。また先生は、当時の知識詰め込み式の画一的な教育に対して、「自分一人をさへ持ち扱ひかねてイライラし

てゐるのに、大胆にも他人の子弟を導かんと企てている人。…：〔悟り方圖解〕より〕

と痛烈な批判をしています。先生がお亡くなりになって八十一年の年月が流れました。成蹊学園は吉祥寺の地に移りました。でも、

みちのべの権の一本葉陰なお

まばらなれども権の一本 中村先生の熱情は語り継がれ、実践として実証されていく中で、こんなにも大きな学校となつたのです。巣立っていった多くの卒業生は、一本一本立派な「権の太木」に育っています。

今、私たちはもう一度中村先生の求めておられた「真の少人数教育」について、「人間教育」についてその思いを辿っていきます。現在働いている教職員にも現在学んでいる子どもたちにも、まったく新しい未知の「蹊」が見えてきています。過去に少人数教育を実践し、ここまで世に「成蹊教育」の存在を認めさせてこられた緒先輩の実践に学び、私たちは子どもたちとともに手探りで、不器用で手作りではあつても「心」のこもつた「成蹊教育」を私たちに創りあげていきます。学級が三十名以下になればということ、中村先生はこう述べています。

「…：個性の観察の余裕もでき、従つて適宜な指導も与え得、級全体の精神統一も期し得る故、教授の徹底も期せられ従つて教育者としての趣味が充分味われるのである。…：〔斯の道の為に〕より〕

こんな中村先生の思いに、私たちはどこまで近づいていけるでしょうか。先生の教えを継ぐ私たちは「教育者としての趣味」をさらにさらに求め続け、子どもたちと心と心が共鳴しあうようなそんな「教育の舞台」を創っていきます。多くの理解者の「心」とも共鳴しあいながら…。

桃李の人々

第5回

日々刻々と変化する世界の経済・金融情勢。

その第一線で活躍されているのが、成蹊大学文学部文化学科(現 国際文化学科・現代社会学科)を卒業された小林いずみさんです。学生時代は外洋帆走部の活動に熱中しつつも、「幅広い分野の学びを通して、ものの考え方の核が形成されたことが現在の仕事にも大いに役立っている」と振り返る小林さんに、成蹊大学の魅力を語っていただきました。



小林いずみ

Izumi Kobayashi
メリルリンチ日本証券
代表取締役社長

外洋帆走部に所属し ヨットに熱中

——成蹊大学文学部文化学科を志望されたのは、どのような理由からだったのでしょうか。

小林 石神井に住んでいた関係で、小さい頃から成蹊学園は身近な存在でした。少人数制でアットホームな雰囲気があり、質の高い教育を行う学園だというイメージも持っていました。漠然とですが、いわゆるマンモス大学には入学したくないと考えていたので、成蹊大学を受験するのは、私にとっては自然な流れでした。

当時は、文学部志望の女子という点、英文学科や国文学科が定番のようになっていました。私は、そうした特定の分野だけを学ぶのではなく、できるだけ幅広い勉強がしたいと考えていました。まだ自分がどの分野に興味・関心があるのかす

文化学科の幅広い学びを通して
ものの捉え方、考え方の
核が形成されたことが
現在の仕事にも大いに役立っています

らも曖昧で、多彩な学びの中から、本当に自分に適したものを見つけたい。そんな思いから、文化学科を志望しました。

今振り返ると、この時の選択は、その後の私の生き方にも通じるところがある気がします。とにかく迷った時は、選択肢の多い方向に進もう。興味の範囲を広げていけば、必ず何かが見つかるという姿勢は一貫していますね。

——実際に入学されて、どのような印象を持たれましたか。

小林 成蹊大学の学生気質は、おっとりしていて、あくせくした競争に走らないところに特色があります。その風土は私の感覚にもマッチし、とても心地よい学生生活を送ることができました。

また、先生方の間には、ユニークな学生を面白がってくださる雰囲気もあつたように思います。ですから、ヨット一色の毎日を送っていた私

のことも、温かく見守ってくださいました。

——ヨットに夢中になっていたのですか。

小林 入学してすぐに体育会の外洋帆走部に入学しました。もともと海が大好きで、泳ぐのも得意でした。外洋帆走部に入れば、大型ヨットに乗って、泳いではいけないようなところにも行けるに違いない。入部の動機はそんな単純な理由でした(笑)。でも、やってみると、予想していた以上に楽しくて、大学三年生の時から、もっと本格的にヨットをやりたいと思いい、社会人のヨットチームに所属したほどです。

夜九時すぎまで 議論が沸騰するゼミ

——どんなところにクルージングに行かれたのですか。

小林 三年生の五月から七月まで、南太平洋にクルージングに出かけま

した。

——そんなに長期間にわたったのですか。三年生からはゼミもスタートしたと思いますが、支障はなかったのですか。

小林 先ほど申し上げたように、先生方は、そんな学生の活動も面白がってくださるような雰囲気がありました。

ゼミには、クルージングから帰って、夏合宿から参加しました。私がいらない三カ月の間に、他のゼミ生たちは基礎素養として経済学の基本原理などをきちんと勉強しています。その上での議論ですから、かなりハイレベルです。最初はまったく議論についていくことができません、素朴な疑問ばかり発していました(笑)。

——どのようなテーマのゼミに所属されたのですか。

小林 福田喜三先生の「マスコミ論」のゼミです。まだそういうゼミを開講している大学は少なく、福田先生



小林 いずみ(こばやし・いずみ)

1959年、東京都生まれ。1981年、成蹊大学文学部文化学科(現 国際文化学科・現代社会学科)卒業後、大手化学系企業に入社。4年後、転職を決意し、メルリンチ・フューチャーズ・ジャパン(当時)に入社。2001年、メルリンチ日本証券代表取締役社長に就任。趣味はヨット。

はこの分野の草分け的な存在でした。

当時の文化学科のゼミは、長時間

におよぶのが一般的でしたが、その中でも福田ゼミは長いので有名でした(笑)。議論が沸騰して、終わるのはいつも夜九時すぎ。守衛さんも慣れているというか、ゼミの日は学生の帰りが遅くなるのが当たり前と思っていらいっしょる感じでした。それから、近くの中華料理店で、中華そばと餃子を食べながら、さらに議論を続けるのが、いつものパターンでした。先生と学生、および学生同士による濃密な議論を通して、様々なことを深く考える習慣が身につきました。とても大学らしい学びの

場だったと思います。

——どんな内容の議論が多かったのですか。

小林 メインテーマは報道のあり方です。報道は中立的な立場を守ることが重要ですが、その一方でビジネスとしても成立させなければなりません。発行部数を増やすためには、時に読者の求めるものに傾きすぎる面もありますし、広告を出すスポンサーへの配慮もあります。中立性と矛盾するところが出てくるわけです。最近、盛んになってきたメディアリテラシー教育を先取りしていたゼミですね。このゼミで学んだことは、現在の仕事にも役立っています。最近、私はマスクミと対応

するケースも増えているのですが、批判的なことを言われた時など「当社の経営を問題にする前に、こちらの経営に問題はないのですか」と、反撃したりすることもありますが(笑)。

もの捉え方の核が形成された

『近代の国際関係』の授業

——そのほか、印象に残っている授業はありますか。

小林 三年生の時に受講した荒井信一先生の『近代の国際関係』が印象に残っています。日本の戦中・戦後の歴史を学ぶ授業で、大きな知的刺激を得ることができました。とくに、なぜアメリカはあのタイミングであえて原爆を投下したのか。なぜ広島と長崎だったのかというテーマの講義は興味深いものでした。当時のノートは今でも保管しています。先日もちよつと読み返してみたのですが、素晴らしい内容の授業だったと再認識しました。

メルリンチ日本証券は外資系企業ということもあって、様々な国籍の社員がいます。先年、原爆を投下した飛行機をワシントンDCの博物館に展示するということが話題になりました。その件に関して、社員たちと話をした時、文化のバックグラウンドが異なれば、歴史事実に対する認識も異なることを痛感しました。様々な考え方を尊重することも大切ですが、その一方で、日本人としての立場から明確な意見も

求められます。おそらく、私は『近代の国際関係』の授業を受講していなかったら、原爆を落とされたという被害者の感情しか持っていないかっただけでしょう。この授業を通して、出来事には必ず背後関係が存在する。それをきちんと把握することによって、必然的な結論を導き出すことができる。そういう思考の方法と面白さを身につけていたので、私なりの考え方、意見を話すことができました。

——二〇〇四年四月に、成蹊学園創立一〇〇周年記念事業の一環として「国際教育センター」がオープンしました。国際化に即した教育体系の整備をめざすセンターですが、英語教育や国際交流プログラム、英語教育のほかに、日本の近現代史に関する教育を重視しているところに大きな特色がありますが…。

小林 大賛成です。国際理解を深めるためには、まず日本の歴史についての理解を深めることが重要だと、私も思います。

そのほか、ジャンヌ・ダルク研究の権威である高山一彦先生や、文化人類学の神部武宣先生など、文化学科にはバラエティーに富んだユニークな分野の研究をしている先生がたくさんいらっしゃいました。そうした多彩な授業によって、もの考え方の核を形成してもらえたことを感謝しています。

少し後悔しているのは、あれだけ素晴らしい先生方が揃っていらっしゃったのだから、もっとたくさん

授業を履修すればよかった、もったいないことをしたということですが、それも、社会に出て、自分なりに仕事をしてきたからこそ分かることなのかもしれません……。今、もし学生時代に帰ることができたら、あの頃以上に真剣に勉強に取り組みますね(笑)。

自分をぶつけて 燃焼できる仕事をめざして 転職を決意

——大学卒業後、最初は化学系企業に就職されたのですね。

小林 正直なところ、なぜ化学系企業だったのか、特別な理由はありませんでした。大卒女子の就職がきわめて厳しい時期であり、選べるような状況ではなかったのです。まだ、男女雇用機会均等法の施行前で、大卒女子も一般事務職としての採用でした。秘書兼アシスタントといった感じの、いわゆるOLと呼ばれる仕事です。それなりに興味を持てる仕事をさせてもらいましたが、たとえ二十年勤務したとしても、ずっと同じ仕事をやるしかない。ステップアップを図ることが認められていない時代でした。もっと自分の力を試したい。自分をぶつけて燃焼できるような仕事がしたい。そんな思いが募り、転職を決意しました。とはいえ、それは簡単なことではありませんでした。『とらばーゆ』が創刊されたばかりの頃で、いろいろ調べてみると、中途採用を行っている

会社は、ほとんどが外資系だということが分かりました。そこで、ちょうど募集していたメリルリンチに応募することにしました。

——まったく異なる業種への転職です。戸惑われた面もあったのではないですか。

小林 私が入社したのは、メリルリンチが東京証券取引所の会員権を取得する一年前で、これから成長していくという時期でした。やらなければならぬ仕事が出積して、経験の有無など関係なく、どんな新しい仕事をやらせてもらえました。その過程で、自然に金融に関する勉強も積むことができました。その意味では、とても恵まれたタイミングで入社したと思います。

——仕事をされていく上で、心がけていらっしゃることはありますか。

小林 時代のニーズ、マーケットのニーズにフレキシブルに対応するということです。組織もビジネスも「生き物」です。市場のニーズが変化すれば、当然、組織もビジネスのスタイルも変えていかなければなりません。そうした柔軟な姿勢と、その中で自分がどう役に立てるかを考えながら行動することを常に心がけてきました。それから、もう一つ、大切にしているポリシーが「答えは一つではない」ということです。

——それはどのような意味ですか。

小林 先ほども申し上げたように、外資系企業では、様々な国の人と一緒に仕事をします。文化が違えば、価値観も考え方も根本的に異なり、必ずしも他の人にとって正しいとは限らない。そんな時に、双方が自己主張を続けても、答えは見えてきません。どれが正しくて、どれが間違っているかを決めつけられないことが大切になります。相手の考えが自分と違っていても、それをしっかりと聞いて、自分の意見に必要な以上にこだわらないようにする。会社としての最終的な目標は明確なわけですから、それを達成するまでの道のりは、それぞれ違っていてもいい。そういう柔軟さを大切にしています。それはまた、幅広い視野を獲得できる文化学科の教育によって育まれた感覚でもあると感じています。

——山口欣次先生が「文化学科の教育理念は多様性にある。ただし、単に広く浅く教えるだけでなく、個々に深く掘り下げる作業ができるような学びの手法の教育も重視している」という意味のことを語っています。

小林 そこが文化学科の最大の魅力ですね。経済や法律のスペシャリストでない私が、現在の職務を務めていられるのは、ゼネラリストとして物事を幅広く見極めて、必要に応じて専門家に任せる姿勢を持っているからかもしれません。全体像を捉えて、方向性を見出していく私のスタイルは、文化学科の教育で培われたものともいえます。

これからの日本には 文化的な価値が求められる

——最後に、これからの成蹊大学に期待されることをお聞かせください。

小林 戦後の高度経済成長期が終わり、日本は新たなステージに移行しつつあります。日々、ビジネスの世界に身を置いていて痛感するのは、今後の日本を世界にアピールするためには、最も重要なのは、経済的な合理性だけではなく、文化的な価値だということです。

その意味で、成蹊大学は、少人数制のもと、きわめて質の高い教養教育を実現しており、自発的にものを考えられる人材の育成に力を注いでいます。そうした教育は、これからの時代に必要とされるものであると、私は確信しています。

——実務一辺倒ではない、豊かな感性を育む教育を大切にしたいというところでしょか。

小林 そこに成蹊大学の教育の良さがあると思うのです。これからの社会は、必ずしも競争主義の世界ではありません。他者との競争ではなく、自分自身の感性を磨くことによって、どれだけクオリティーが高く、かつ個性的なバリエーションを創造できるかがカギを握ります。そうした感性を鍛える熱い教育を、成蹊大学に期待しています。

(インタビュー／広報課 伊藤昌弘)

紀伊國屋書店制作

学問と情熱シリーズ第三十二巻

中村春二

大正自由教育の旗手

完成

昨年より紀伊國屋書店と学園で共同制作しておりました成蹊学園創立者中村春二先生の評伝映像(DVD版)がこの二月完成いたしました。

二月十七日に新宿の紀伊國屋ザンシアターにおいて完成記念上映会が開催されました。当日は一般、卒業生、学園関係者など三百七十名もの来場者を得て、盛況な記念上映会となりました。

上映会の後、ナレーターを務められた卒業生で女優の長山藍子さんの舞台挨拶に続き、パネルディスカッションが「成蹊教育の根源にあるもの」と題して約一時間行われました。

パネラーには本作品監修の柴田義松氏(東京大学名誉教授・元成蹊大学文学部教授)、上原明氏(大正製薬代表取締役社長・成蹊学園理事)、中村滋氏(小学館常務取締役)、上田祥士氏(成蹊学園評議員・校医)の四氏でした。中村先生の教育理念、現代に生かす教育などが話し合われ、また中村先生の孫にあたる中村氏より、家庭での先生のエピソードなどのご紹介もあり、興味深いディスカッションとなりました。



長山藍子さんにご挨拶をいただきました。



上田祥士氏
(成蹊学園評議員・校医)



柴田義松氏
(東京大学名誉教授・
元成蹊大学文学部教授)



中村 滋氏
(小学館常務取締役)



上原 明氏
(大正製薬代表取締役社長・
成蹊学園理事)

第32巻 中村春二

大正自由教育の旗手

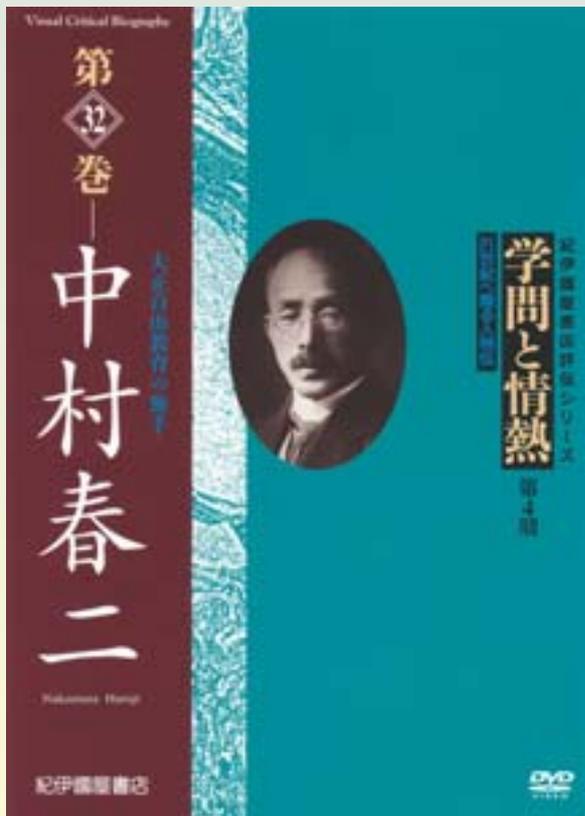
デモクラシーが声高に叫ばれ、「自由」「民本」という言葉が市民に根付き始めた時代、「大正」。教育界にも大きなうねりが押し寄せ、欧米の新教育運動の影響を受け、それまでの画一的な注入教育に対して、子供たちの自発性・個性を尊重しようとした自由主義的な教育運動が繰り広げられた。後に「大正自由教育」と称された運動の中で、多くの学校が生まれる。しかし、欧米の新教育理論だけでなく、日本的な僧堂教育に基づく全く新しい教育理念を掲げ、大正自由教育の先駆けとなった教育者がいた。それが中村春二である。「心力歌」「凝念法」「鍛錬主義」…。彼は独特の教育方法を次々に打ち出し、実践した。

生徒への教育だけでなく、教師の修養を重要視し、師弟の心が直接触れ合う人格教育、人間教育を目指した。その教育理念は、学内にとどまらず、ひろく一般に浸透していく。

21世紀に入り、教育を取り巻く諸問題がますます混迷を深める中、中村春二の理念にいま再び耳を傾け、真剣に対峙した時、我々には新しい糸口が見えてくるのかもしれない。

監修:柴田義松 演出:荻野洋一 ナレーション:長山藍子、遠藤守哉
特別協力:成蹊学園史料館、上田祥士

紀伊國屋書店チラシより



2004年度 成蹊大学賞・特別奨励賞 受賞者一覧

学術部門	平 健介 (工研・電電・前期2年)	電気学会産業応用部門大会(電気学会主催)に参加し、「ヤングエンジニアポスターコンペティション」において優秀な成績を収めた。
芸術部門	今井聡子 (法・政治2005年3月卒)	ピティナ・ピアノステップ((社)全日本ピアノ指導者協会主催)においてステージの継続表彰。
スポーツ部門	文化会競技ダンス部所属 松尾知樹 (法・法律2005年3月卒) 関根七瀬 (文・文2005年3月卒)	第48回全日本学生競技ダンス選手権大会(全日本学生競技ダンス連盟主催)に出場し、スローフォックストロットの部 第8位。
文化活動部門	文化会英語会	The 5th JPDU Tournament (Japan Parliamentary Debate Union主催)に参加し、第3位。
社会活動部門	磯村亮輔 (法・法律3年)	目黒区の青少年健全育成活動ならびに防災活動に参加。目黒区の「善行青少年」に選出された。
特別奨励賞	福永真己 (済研・経済・前期2005年3月修了)	マンフレッドラックス宇宙模擬裁判大会(International Institute of Space Law, IISL)に3人1組の東京大学チームのメンバーとして、日本から唯一参加した。
	吉田雄一郎 (営研・経営・前期2年)	(株)ファーストリテイリングのインターンシップ2004に参加し、提案したビジネスモデルが実現化され、同社から発表された。
	体育会ヨット部所属 虎岩杏奈 (経・経済2005年3月卒) 川島真希 (経・経済3年)	第13回全日本学生女子ヨット選手権大会(全日本学生ヨット連盟主催)に出場し、スナイプ級 第5位。 平成16年度関東学生女子ヨット選手権大会(関東学生ヨット連盟主催)に出場し、スナイプ級 第3位。
	体育会 ライフセービング部	第13回全日本ライフセービング選手権大会(日本ライフセービング協会主催)に出場し、部員数名がクラブチームより参加し、数種目で1位を獲得。 第19回全日本学生ライフセービング選手権大会(日本ライフセービング協会主催)に出場し、男子タップリッパで第3位。
	武石和成 (経・経営4年)	世田谷区BBS会におけるボランティア活動に参加し、何らかの問題を抱えている青少年の社会的自立の手伝いをした。また学生部主催の「私のボランティア」の中心的役割を担った。



で積極的に活動し、その功績が評価された個人および団体に対しては、特別奨励賞を授与しています。

二〇〇四年度の表彰式は、二月二十一日、本館大講堂において行われました。受賞者、受賞団体は左記の通りです(受賞者の学年は新年度の学年です)。

本学では、毎年六月の土曜日に、「父母懇談会」を開催しています。この父母懇談会は大学、各学部の現況を保証人の方に理解していただける機会であること

二〇〇四年度の表彰式は、二月二十一日、本館大講堂において行われました。受賞者、受賞団体は左記の通りです(受賞者の学年は新年度の学年です)。

本学では、毎年六月の土曜日に、「父母懇談会」を開催しています。この父母懇談会は大学、各学部の現況を保証人の方に理解していただける機会であること

二〇〇四年度成蹊大学賞
卒業生 一名
在学学生 七名

学部・研究科 横断科目の設置について

本学では、より広範な視野と多面的な視座を持った人材の育成を目指し、総合科目の設置や他学部が開設する科目の履修など、専攻する分野を超えて幅広く学修することができるよう環境を整えてきました。

2005年度 共通開講科目一覧

区分	授業科目名	
国際教養科目	歴史に学ぶ	古典と現代 アメリカ合衆国と世界
	現代を生きる	経済思想と人間の生き方 最先端科学の挑戦
		日本のマイノリティ 生命倫理の諸相
	世界と日本	海外の日本・日本文学研究 国際性を身につけるために
	国際コース科目	Japanese Economy グローバル化と文化
		英語で学ぶ政治学 職業とキャリア
知の創出 データの科学		
大学院	学際分野特殊研究	

(注)各科目とも、半期2単位。

各研究科の垣根を超えた横断的な科目の設置は、多様化する学修ニーズに応えるもの、あるいは進路選択の幅を広げる一助となるものと期待しています。

大学の近況

二〇〇四年度 国家試験合格実績

二〇〇四年度 国家試験合格実績
司法試験(二名)
弁理士試験(四名)
国家公務員試験I種
国家公務員試験II種

二〇〇四年度 国家試験合格実績
司法試験(二名)
弁理士試験(四名)
国家公務員試験I種
国家公務員試験II種

二〇〇四年度 国家試験合格実績
司法試験(二名)
弁理士試験(四名)
国家公務員試験I種
国家公務員試験II種

2005年3月卒業生の主な就職企業

経済・法・文学部 男子	人数(人)	経済・法・文学部 男子	人数(人)
日本興亜損害保険	5	森永乳業	1
ユーエフジェイ銀行	4	大日本印刷	1
千葉銀行	3	凸版印刷	1
東京三菱銀行	3	ファイザー	1
東京都民銀行	3	山之内製薬	1
中央三井信託銀行	3	大塚製薬	1
多摩中央信用金庫	3	横浜ゴム	1
三井住友銀行	2	住友大阪セメント	1
八千代銀行	2	フジクラ	1
オリックス	2	三菱アルミニウム	1
明治安田生命保険	2	小松製作所	1
損害保険ジャパン	2	ウシオ電機	1
三井住友海上火災保険	2	小糸製作所	1
みずほ銀行	1	トヨタ自動車	1
野村証券	1	オリックス	1
第一生命保険	1	ソフトバンクBB	5
日本生命保険	1	菱洋エレクトロ	2
東京海上日動火災保険	1	青山商事	2
旭化成ホームズ	4	セブンイレブン・ジャパン	2
大和ハウス工業	3	養食	1
大王製紙	3	キヤノン販売	1
東洋製罐	3	国分	1
トプコン	3	片岡物産	1
竹中工務店	2	高島屋	1
積水ハウス	2	住友不動産販売	3
日本たばこ産業	2	三菱電機ビルテクノサービス	3
日本製粉	2	東日本旅客鉄道	2
大日精工工業	2	日本通運航空事業部	2
日本精工	2	三菱地所住宅販売	1
鷺宮製作所	2	小田急不動産	1
スタンレー電気	2	ジェイティービー	1
ニチレイ	1	住商情報システム	1
ヤクルト本社	1	講談社	1
ロッテ	1	フジテレビジョン	1

経済・法・文学部 女子	人数(人)	経済・法・文学部 女子	人数(人)
みずほ銀行	39	住友林業	2
東京三菱銀行	24	竹中工務店	1
東京海上日動火災保険	17	大日本印刷	1
ユーエフジェイ銀行	10	イーザイ	1
三菱信託銀行	9	電気化学工業	1
日本生命保険	9	大同特殊鋼	1
三井住友銀行	6	村田製作所	1
三井住友海上火災保険	6	ウシオ電機	1
日本興亜損害保険	6	スタンレー電気	1
みずほ信託銀行	5	横河電機	1
東銀リース	5	ソフトバンクBB	7
三井リース事業	4	三越	5
野村証券	4	阪和興業	3
住友信託銀行	3	JFE商事	2
ディーシーカード	3	コーンズドッドウェル	2
大和証券	3	日本紙/バルブ商事	2
太陽生命保険	3	ペルナ	2
大同生命保険	3	和光	2
第一生命保険	3	住友商事	1
損害保険ジャパン	3	全日本空輸	5
八千代銀行	2	NOVAグループ	5
武蔵野銀行	2	ジェイティービー	4
ジェーシービー	2	スターツ	3
オリックス	2	三井不動産販売	3
みずほ証券	2	すみしん不動産	2
明治安田生命保険	2	中央出版	2
中央三井信託銀行	1	三井リース販売	2
日本銀行	1	東日本旅客鉄道	1
日本政策投資銀行	1	日本通運	1
城南信用金庫	1	郵船航空サービス	1
積水ハウス	1	講談社	1
旭化成ホームズ	4	フジテレビジョン	1
Xリー・コレートカム/リー	4		

2005年2月28日現在

工学部 (大学院を含む)	人数(人)	工学部 (大学院を含む)	人数(人)
横河電機	4	シャープ	1
凸版印刷	3	スタンレー電気	1
日立製作所	3	バイオニア	1
スズキ	3	三菱電機	1
本田技研工業	3	日本アイ・ピー・エム	1
大日本印刷	2	日本信号	1
ノバルティスファーマ	2	小糸製作所	1
サンデン	2	三菱自動車工業	1
東芝	2	日産自動車	1
沖電気工業	2	オリックス	1
アイシン・エイダプテ工業	2	ニコン	1
いすゞ自動車	2	シチズン時計	1
トヨタ自動車	2	コクヨ	1
マツダ	2	横浜銀行	1
清水建設	1	ユーシーカード	1
積水ハウス	1	エフソン販売	1
千代田化工建設	1	矢崎総業	1
森永乳業	1	小田急百貨店	1
明治製菓	1	高島屋 東京店	1
麒麟ビール	1	東京電力	8
資生堂	1	メイテック	3
アベンティスファーマ	1	日産テクノ	3
イーザイ	1	クオリカ	2
小野薬品工業	1	ソニー・エルエス・デザイン	2
田辺製薬	1	ヤフー	2
武田薬品工業	1	住商情報システム	2
出光興産	1	第一生命情報システム	2
東京機械製作所	1	全日本空輸	1
THK	1	東日本旅客鉄道	1
キヤノン	1	東京海上日動システムズ	1

各種証明書発行手続きの
一部変更について

個人情報保護に関する法律の全面施行に伴い、本学においても卒業生の方の各種証明書発行お申込み手続き方法の一部が変更となります。特に郵送によるお受け取りにつきましては、従来より発行までに時間をいただくま

父母懇談会一覧表

対象	開催日	前回出席者
経済学部 2年次生保証人	6月11日	142名
工学部 2・3年次生保証人	6月11日	246名
文学部 3年次生保証人	6月18日	166名
法学部 2年次生保証人	6月18日	140名

ともに、各学部・学科の教育方針やご子女の修学状況等につき、教員と直接懇談することで、より一層のご理解を得ていただく機会でもあります。

懇談会では、学部・学科の現況説明後、希望者を対象としたグループ懇談や個別懇談を行います。また、就職概況説明会を開催し、最近の就職状況についての説明・質疑応答なども行います。普段なかなかキャンパスを訪れることのない保証人の方々に、学生生活を知っていただくよい機会となると考えておりますので、ぜひご参加ください。なお、五月に入りましたら、開催日程等の詳しいご案内状と出欠葉書をお送りいたします。

2005年度 前期公開講座のご案内

成蹊大学では、年2回公開講座を開催しています。どなたでもご参加いただけますので、ぜひお出かけください。

テーマ	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
「生活を支え、豊かにする理工学と先端技術」	5月28日(土) 「食の安全と安心を求めて」 -油脂および油脂含有食品の品質管理について- 戸谷洋一郎 理工学部物質生命理工学科教授	6月4日(土) 「情報社会の窓 電子ディスプレイの生態学」 -利用者中心のディスプレイ技術への視点- 窪田 悟 理工学部エレクトロメカニクス学科教授	6月11日(土) 「摩擦と人間-日常生活から先端技術まで-」 佐々木成朗 理工学部物質生命理工学科助教授	6月18日(土) 「文化の差による音の感受性の差異について」 橋本竹夫 理工学部エレクトロメカニクス学科教授	6月25日(土) 「ITS: Intelligent Transport Systems (高度道路交通システム)」 青木正喜 理工学部情報科学科教授
会場	大学8号館101室				
時間	13時30分~15時30分				
受講方法	申し込み不要。当日直接会場へお越しください。				
お問い合わせ先	企画運営課 TEL 0422-37-3535 FAX 0422-37-3883 e-mail kouza@jim.seikei.ac.jp http://www.seikei.ac.jp/university/				
URL	http://www.seikei.ac.jp/university/				
	*テーマ、講演題目の名称については、変更の可能性があります。				

2005年度 学年暦

	大学	法科大学院
前期		
入学式	4月5日(火)	4月5日(火)
オリエンテーション	3月31日(木)~4月9日(土)	4月2日(土)
健康診断	4月2日(土)~8日(金)	
授業開始	4月11日(月)	4月6日(水)
学内陸上競技大会	5月31日(火)	
学内競漕大会(レガッタ)	6月22日(水)	
振替授業日	7月9日(土)、11日(月)	
授業終了	7月15日(金)	7月19日(火)
補講日	6月25日(土)、7月2日(土)、16日(土)	7月20日(水)~26日(火)
前期試験	7月19日(火)~8月1日(月)	7月27日(水)~8月6日(土)
前期レポート試験(提出期間)	7月25日(月)~26日(火)	
夏期休業	8月2日(火)~9月21日(水)	8月7日(日)~9月25日(日)
学位授与式(9月卒業)	9月24日(土)	
後期		
授業開始	9月22日(木)	9月26日(月)
四大学運動競技大会(於成城大学)	10月21日(金)~23日(日)	
樺祭期間	11月17日(木)~21日(月)	
振替授業日	12月10日(土)、17日(土)	
冬期休業	12月25日(日)~1月9日(月)	12月25日(日)~1月6日(金)
授業再開(振替授業日)	1月10日(火)	1月7日(土)
授業終了	1月16日(月)	1月20日(金)
補講日	12月24日(土)、1月14日(土)、17日(火)	1月21日(土)~27日(金)
後期試験	1月18日(水)~31日(火)	1月28日(土)~2月7日(火)
後期レポート試験(提出期間)	1月23日(月)~24日(火)	
春期休業	2月1日(水)~3月30日(木)	2月8日(水)~3月31日(金)
学位授与式	3月18日(土)	3月18日(土)

成蹊中学合唱コンクール

中学一年生では二月十九日に合唱祭を行いました。二期の音楽の授業から練習を積み重ねてきた各クラスの生徒たちは、リハーサルや放課後の練習を経て、調和の取れた美しい歌声を大学四号館ホールに響かせることができました。

各クラスより選出された合唱祭委員が中心となり、イラストの募集からプログラムの作成、成蹊小学校六年生時の担任の先生などへの招待状送付、当日の受付・誘導、司会などの進行、後片付けまで生徒自身の手で企画・運営を行いました。

悪天候にもかかわらず、三百名近くの保護者の皆様にもお越し



いただき、「子どもたちの様子が見て取れてよかった」クラスの雰囲気かわかった」「二年生・三年生でもやってもらいたい」などのご意見を頂戴しました。

マラソン大会・耐寒健歩会

昨 年工事のため実施されなかった中学の健歩会は、二月十九日の朝に積もった雪とその後

の雨でまたしても実施が懸念されましたが、二十二日の当日は好天に恵まれ、春浅い陽光のもと狭山湖一周約十五キロの道程を全員元気に励ましあいながら歩き果たすことができました。

同日に高校は立川昭和記念公園でマラソン大会を行いました。

男子は八・五キロ、女子は四・五キロをクラス対抗で競って走行しました。

団体優勝は二年生。個人でも男子が二年生の二十九分三十六秒、女子も二年生が十七分二十九秒で優勝しました。今年は団体も男女の個人においても二年生が上位を占め、圧倒的強さを発揮し頼もしさをアピールしました。一年生の奮起を期待したいところです。

三学期の体育実技は中学では健歩会を、高校はマラソン大会を目指して持久走が中心となります。週二回の実技で培った心身の持久力でこの鍛練の行事を克服します。

この二つの行事は学園の創立者中村春二先生の「愛撫よりは鍛練

を」の精神をとどめる行事として、今後とも大切にしていきたいと考えています。

入学試験

一〇五度入学生のための入学試験は、一月十一日の中学国際学級入試を皮切りに二月一日に中学一般入試、同月十日高校

一般入試、更に同月十四日には高校帰国子女入試が行われました。今年から中学国際学級の二回目の入試は、必要があれば実施ということになり、今年は見送られました。

中学校の受験者数は昨年に比べると増加しましたが、高校は残念ながらわずかですが減少しました。

他私学に比べて魅力が薄いのが長い間努力して創り上げてきた私学の施策を真似た昨今の公立中高の改革が、ジワジワと私学を追い込んできているのか、この減少は今年限りの傾向なのか、いずれにしても公私各校の入試を巡る厳しい情勢の中で成蹊中学・高等学校の存在と魅力を更に流布すべく努力を重ねる所存です。

文化部・運動部の活躍

文化部の小規模発表会の一つである一月展が、今年は一

月十七日から二十二日までの間一週間行われました。この期間中学の美術、写真、家庭等各部は中学HR一階ホール、および中央館

一階廊下に書道部、また高等学校の美術、生物、地学等各部は高校食堂内にそれぞれパネルを設置して日頃の創作・活動成果を発表しました。二十二日の最終日には演劇や吹奏楽、ストリングス、ダンス等各部の大教室公演が多く生徒と保護者の方々に来席頂き、開催されました。

この後三月二十一日には中高吹奏楽部が第十三回定期演奏会を実施しました。

卒業式

三月八日に高等学校、三月十八日に中学校の卒業式が行

われました。高等学校三百十三名、中学校二百四十五名の卒業生に卒業証書が授与されました。中学校の卒業生のうち二百三十二名が高等学校に推薦入学し、また高等学校から成蹊大学の推薦入学者は昨年を上回る百三名に上りました。これは卒業生全体の三十二・八％に当たり、昨年より五ポイントも上回りました。成蹊大学

への推薦入学者が三桁を超えたのは五年ぶりのこと。成蹊大学の学部再編成や教授による模擬授業、施設の見学、大学の国際教育プログラムの受講など、高大連携して積極的な説明会や情報提供が行われたことにより、大学の魅力や特徴の理解が浸透しつつある現れと考えます。

しかし高校生にとって成蹊大学はまだまだ身近過ぎて見えない部分も多い大学。更に工夫を重ね成蹊大学への正しい理解活動を継続することを考えています。

また、外部大学を受験した卒業生の結果については現段階ではまだまとまりません。別の機会にご報告したいと思います。

運動部・文化部の活躍

前号で報告いたしました以降の高校の部活動成果について、地区予選を勝ち抜き都大会以上に出場したクラブを紹介いたします。

高校・運動部

- 硬式テニス部
 - 全国選抜高校テニス大会
 - *東京都予選大会 ……第二位
 - *関東選抜大会 ……第九位 (全国選抜大会 出場決定)
- 馬術部
 - *関東高等学校馬術競技大会 個人 ……優勝
- ラグビー部
 - *東京都新人大会 ……第一位
 - *関東大会 ……出場
- 柔道部
 - 全国高校選手権大会
 - *東京都大会 個人 ……出場
- 高校・文化部
 - 高校美術部
 - *全日本学生美術展 ……佳作



第八十九回卒業式

第 八十九回卒業式が、三月十七日学園大講堂で厳かに行われました。一人ひとりに手渡される卒業証書の裏には、成蹊小学校を飛び立っていった卒業生の通し番号が記されています。今年の最後の番号は九四九四番となります。この子たちのうち九名の外部進学者を除いた百二十二名が成蹊中学校へと進学していきます。

卒業式と教室移転
卒業式の翌日、卒業していった卒業生の場所だけが空間として開いている体育館アリーナで二〇〇四年度の卒業式が行われました。卒業生がいない、そして九名の教職員が成蹊小学校を離れていく寂しい瞬間です。しかしこれも新しい一年生、新しい教職員を迎えるための一つの節目なのです。

卒業式と教室移転

卒業式の後是一年間お世話になった教室に戻り、教室移転の活動です。この瞬間から中央館の二階部分は新しい三年生の生活空間となります。最後に、進級後の学級発表があり、春休みに突入していきます。新年度からのことを夢見ながら……。

心の共鳴とやさしい心

次の二つの四年生の日記を

「さ」が日記の言葉の端々から伝わってきます。子どもたちと教師の「心」と「心」の共鳴は、子どもたちが自己表現をする様々な生活の場、活動の場、遊びの場で行われているのです。それらがさらに発展して子どもたちの心を豊かに育てていきます。

うさぎのかいほう
安部 舞子

うさぎ小屋の前に行ってみると、…ひっつかれないかな。上手にだいてあげられるかなあ。…と内心少し不安になってきました。

まず、レタスをあげましたが、食べてくれなかつたので、(残念！おなががすいていないのかなあ？)と思いました。

すると、飼育委員が、「うさぎだきたい人ー！」と言ったとたん、全員手を挙げていました。私ももちろん挙げてました。まず、私が一目見て気に入ったブッチー(私が勝手につけた)をまず先にいただきました。ちゃんと私の手におさまって、だきしめたくなくてしまいました。が、苦しくなるといけないと思い、ほおずりをしてしまいました。

内海さんは、「見てみいー、このつぶらなひとみ。シュレックのまね。どお。」と言っていて、うれしそうにだいていました。他の人たちも、楽しそ

うにだいていました。うさぎは、モコモコしていて目が丸くてきれいで何かあったかくて幸せな気分にしてけると感じました。だからみんなも、自然と大切にだっこしたり、好きそうなえさをあげたくなるのだと思います。

外は寒かったです。私と内海さんは、ほんわかしたあたたかい気分が教室にもどりました。…

お年よりはやさしく
小山 龍太郎

「あー急がなきゃー。」今日は用事がある日なので、早めに家に帰らないといけません。バスがきちじょうじに止まったら、走ってキップを買って改札口へ行くことしたら、若いお兄さんがキップの買い方がわからないおばあさんに、「大じょうぶですか？」と言いました。キップの買い方を教えてあげていました。ぼくはその若い人を見て、「あーこの人はお年よりの人によさしくしてあげていい事をしてるなあ。」

と思います。ぼくは、その若い人とお年よりの人を見ていて時間を十分もオーバーしてしまいました。ぼくは、(十分もオーバーしちゃった。でもいい事をしている人を見られて自分もいい気分になるなあ。)

家に戻ってお母さんに、「今日の帰り、キップの買い方がわからないお年よりの人に若い人がキップの買い方を教えていて、お年よりにとってもやさしかったよ。」

と言っていて、「そついう事を見ているって自分もいい気分になるでしょう。」と言っているのです。

(まさにとおどろだ！)と思えました。

(ぼくも大人になったら一回でもいいからお年よりやこまっていた人をたすけたいな。)

と思えました。

この日記を読んだ担任は子どもに赤ペンで次のように呼びかけています。「りゅうたろうはよい子どもだ。若いお兄さんに、やさしい心があることを見ぬいたのだからね。そして、自分もよい気分になれたことを喜んでる。さらに、自分もまねしたいと考えているのもすばらしい。あのおばあさんは、大変喜んでいたにちがいない。」

子どもたちの心と教師の心が共鳴しあっている一つの場面です。こんな心の共鳴がいつも成蹊小学校の中では起こっています。

マラソン大会がんばったよ

今日は天候にも恵まれまして。予定を変えることなくすべての学年のマラソン大会を



終えることができました。自分の目標タイムに到達した子、できなかった子、スタートと同時に転び、怪我をしながらも最後まで走りきった子、お腹がいたくなり苦痛な表情をしながらも最後まで走りとおした子、様々な筋書きのないドラマが桜並木で櫻並木で演じられました。

どんなときにも、やさしく励ましてくださった保護者の方々の熱い眼差し、声援、応援の数々…、子どもたちはどんなにか勇気づけられたことでしょう。この日の思いが次のワンランクアップした子どもたちの世界のドラマを生んでいくのです。

まだまだ報告したい子どもたちの表情があるのですが、そちらはホームページをご覧ください。

2005年度予算の概要

2005年度予算は、理事会、評議員会の議を経て、第1表及び第2表のとおり決定いたしました。

経済情勢の好転が見られず、国立大学法人化等による大学間競争が進む中で私学の経営環境は厳しさを増しています。収入の面では、新入生(小学校では1年生から3年生)の納付金を改定しましたが、情報図書館の建築費用の支払いに伴う基本金組入額が増加したため、減少しています。支出の面では、創立100周年記念事業の推進を中心に教育研究の充実、施設設備の更新・改修等により増加しております。このような状況下で収支の均衡を図るためには、管理諸経費の見直し等コスト縮減が従前にも増して求められます。貴重な財源を有効に使用することを念頭におき、経費の見直しと重点的な予算配分に努めました。

第1表の消費収支予算書は、消費収入と消費支出の均衡の状態とその内容を明らかにすることにより、学園の経営状況を把握するものです。

消費収入の部では、納付金が前年度より5億31百万円減少の見込みですが、これは新入生の納付金を入学定員数で積算していることと、前年度予算額を実入学者数により補正したことによるためです。その他、手数料、寄付金、補助金などの実質的収入である帰属収入の合計は139億12百万円となり、昨年度より5億23百万円減少しています。

基本金組入額は学校運営のために基本的に必要とする建物、機器備品、図書等の取得額(第1号)、将来の校舎取得等を目的とした施設設備整備資金の積み上げ額(第2号)、成蹊学園創立100周年記念事業募金から積み上げる奨学基金(第3号)で、その合計額は36億85百万円となります。帰属収入から、この基本金組入額を控除した額が消費に充てられる消費収入で、その額は102億27百万円となります。一方、消費支出の部では、人件費、教育研究経費、管理諸経費などの消費支出合計は137億39百万円となります。

この結果、消費収入合計と消費支出合計の差額35億12百万円が消費支出超過額となる見込みです。これは、当初から見込んでいたことではありますが、情報図書館の建築費用の支払いが始まること(2005年度の支払い約29億円)、及び2006年度以降に計画されている校舎等の建築費用を第2号基本金として積み上げるため、基本金組入額の総額が増加したことが主要因になります。

第2表の資金収支予算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されており、予算総額は270億35百万円です。収入の部のその他の収入は、退職金の支払資金及び施設の建設や改修の支払資金等に

充当するため、過年度に積み上げていた資金の取崩し額です。一方、支出の部の資産運用支出では、計画に基づく施設設備整備資金引当特定資産等への資金の積み上げを行います。

2005年度における学園創立100周年記念事業など主な事業計画は次のとおりです。

- 情報図書館は、2006年夏の竣工に向けて建築工事が進められます。2005年度に支払を予定している29億2600万円を予算計上しています。

- 中学・高等学校施設の再開発

2006年度の中学教室棟の着工をめざして、設計調査費用等2400万円を予算計上しています。

- 小学校施設の再開発

小学校の教室棟の着工は、2007年度を予定していますが、2005年度から基本構想の検討作業を開始します。基本構想を検討するための設計調査費用等1300万円を予算計上しています。

- 小学校28人4学級制

小学校では28人4学級制が1年生から3年生でスタートします。指導用教材教具の整備や学級文庫図書の整備等200万円を予算計上しています。また、夏の学校を実施する学園箱根寮を4学級同時に宿泊できるような改修するため2000万円を予算計上しています。

- 国際教育センター

学園横断型組織として昨年度開設された国際教育センターの運営管理費、国際教育関連費用として約5000万円を予算計上しています。

- 学園環境の整備

中高・学園グラウンド周辺沿道部の緑化調査及び体育施設整備の調査のため1100万円を予算計上しています。

- 理工学部の設置

2005年度に設置された理工学部の新たなカリキュラムに対応するための学生実験用設備・装置、器具等の必要経費約1900万円を予算計上しています。

その他、厳しい財政事情ではありますが、充実した学園生活になるよう、できる限り教育関係予算の確保に努めています。

第1表【消費収支予算書】

2005(平成17)年4月1日から、2006(平成18)年3月31日まで (単位:百万円)

消費収入の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金	10,364	10,895	△ 531
手数料	721	753	△ 32
寄付金	396	376	20
補助金	1,388	1,441	△ 53
資産運用収入	342	340	2
事業収入	256	185	71
雑収入	445	445	0
帰属収入合計	13,912	14,435	△ 523
基本金組入額合計	△ 3,685	△ 2,989	△ 696
消費収入の部合計	10,227	11,446	△ 1,219
消費支出の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
人件費	7,989	7,956	33
(教職員等人件費)	(7,619)	(7,605)	(14)
(退職給与引当金繰入額)	(370)	(351)	(19)
教育研究経費	4,581	4,361	220
(うち減価償却額)	(1,769)	(1,747)	(22)
管理諸経費	856	817	39
(うち減価償却額)	(189)	(175)	(14)
借入金等利息	65	73	△ 8
資産処分差額	2	210	△ 208
徴収不能引当金繰入額	16	16	0
(予備費)	230	170	60
消費支出の部合計	13,739	13,603	136
当年度消費収支差額	△ 3,512	△ 2,157	
前年度繰越消費収支差額	△ 791	1,366	
次年度繰越消費収支差額	△ 4,303	△ 791	

第2表【資金収支予算書】

2005(平成17)年4月1日から、2006(平成18)年3月31日まで (単位:百万円)

収入の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金収入	10,364	10,895	△ 531
手数料収入	721	753	△ 32
寄付金収入	396	376	20
補助金収入	1,388	1,441	△ 53
資産運用収入	342	340	2
資産売却収入	450	599	△ 149
事業収入	256	185	71
雑収入	445	446	△ 1
前受金収入	2,014	1,992	22
その他の収入	6,316	4,224	2,092
資金収入調整勘定	△ 2,554	△ 2,904	350
前年度繰越支払資金	6,897	8,311	△ 1,414
収入の部合計	27,035	26,658	377
支出の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
人件費支出	8,320	8,311	9
(教職員等人件費支出)	(7,619)	(7,605)	(14)
(退職金支出)	(701)	(706)	(△ 5)
教育研究経費支出	2,812	2,613	199
管理諸経費支出	667	642	25
借入金等利息支出	65	74	△ 9
借入金等返済支出	172	172	0
施設関係支出	3,226	1,719	1,507
設備関係支出	336	556	△ 220
資産運用支出	5,503	4,894	609
その他の支出	826	1,301	△ 475
(予備費)	350	250	100
資金支出調整勘定	△ 556	△ 771	215
次年度繰越支払資金	5,314	6,897	△ 1,583
支出の部合計	27,035	26,658	377

救命と教育

成蹊学園は日本で最も多くの救命指導者(応急手当普及員)／

十八歳位以上対象・総務省消防庁公認)を継続的に育成している教育機関です。三年前、工学部応用化学科の先生方の熱心な取り組みによりその産声をあげ、非医療系の学園でありながら、文部省では講義の一部に組み込まれるなど、今年の夏までに小中高大の教職員や学生を合わせ三百名以上が応急手当普及員の認定を受けることになっています。世に救命法を教えている学校は数多くありますが、救命法の指導者たる応急手当普及員をこれほどまでに育成している学校組織は他にはありません。普及員取得には時間も費用もかかるので一般に敬遠されがちなのですが、普及員育成には秘められた教育効果がありました。普及員は救命法指導の実践を通して、自らの口で命を救うことの重要性や必要性を訴え、いかに死の淵にある人を救うかを身をもって示し、それが絶対の正義であることを説きます。その指導の中で、社会正義やモラルについても自問自答し、自らの存在意義や努力の価値、社会貢献を通しての自分の使命感や可能性を発見していきます。自分の核となる正義とモラルを見出した学生普及員などは、自信と決断力を身につけ、人格の陶冶への一歩を踏み出し、個

性的な未来を切り開く喜びと勇気を得るのです。

次に示す文章は、成蹊大学の学生普及員が主催するサークルの活動案内で、平成十六年にサークルの代表が武蔵野FMに出演した時のものです。普及員となった彼らの成蹊生らしい実践の様子と、熱い思いが伝わってきます。「ABCRescue (ABCRI)は正式名称をAcademic Brave Chain of Rescueといいます。応急手当を普及することを目的に設立しました。大学で学ぶ私たち若者が、勇気を持って救命活動を実施できるように、日頃から訓練をしています。そして私たちから大学へ、大学から社会へと生命の危機にある多くの人々のためにこの思いが伝わるようにと名付けました。ABCRIのメンバーは消防庁公認の応急手当普及員の資格を持つていて、消防庁の名のもと、救命法の指導ができます。私たちはこうした活動を通して、命の大切さを伝えていますが、逆に私たちが実感しています。講習を受講することで、あらゆる状況で窮地に追い込まれた時、自分への助けを待つのではなく、自分に何ができるのかを考えることが大切であることを実感しています。自分の命だけでなく、家族の命、友人の命、そしてまわりの人の命を大切に感じられるのです。これは救命法を指導する中で得ることのでき

所長の独り言

櫻井勝

ソックのする扉を開けると若い男が立っていた。甲板作業着に浅黒く焼けた肌、屈強な身体をしているが、物静かな控えめな声をしている。初仕事に身構えた。「ドクター…。実は下で一杯やっていると、おいでになりませんか？」

病人発生ではなかった。思いがけず招待を受けたのは嬉しかったが、海の荒くれ男達と酒を酌み交わすことには覚悟がいたと思っただ。まずは皆とコミュニケーションを図ることが大切である。闇雲に勉強する覚悟で持ち込んだおびただしい本の荷を解くのもやめ、皆のところに向かった。会場は階下の甲板員の食堂であった。船窓に海面が上下している。既

に七、八人の男達が飲んでいた。「ドクター、掛けて下さいよ。」

一番年のいった男が口を開いた。この男「ボースン」、甲板長である。私は自己紹介をするに腰掛けた。緊張の一杯が済むと一気に雰囲気緩和された。男達は満面に笑みをたたえながら語らった。ボースンがクジラ取りの名手であったこと、二等機関士の田舎の島の恵まれた自然や、そしてこれから向かう南氷洋の暴風圏の話、空を覆うオーロラの美しさ。酒はどれも一流のものであった。船乗り達は陸の人では考えられないほどコミュニケーションに長けていた。会話上手で、ほどよい思いやりと個人的な内容にあまり深入りをしない礼節をわきまえていた。長期間、狭い



船内で心地よく生活するための知恵なのだ。だから、食べ物や酒は超一流のものにこだわった。一般では決して出回ることのない、漁師仲間から仕入れた珍品中の珍品が飛び交う、誠に贅沢な宴席なのであるが、船乗り達の口マンあふれる話しほど心地よい酒の肴はなかった。したたかに飲んだその日は、本の片付けもそのままに海のロマンを抱きながら正体なく眠りこけてしまった。船上生活の初日は良い幕開けで始まった。(つづく)

る感覚でした。私たちはこの感覚を一人でも多くの人たちと分かち合えるのではないかと考え、共感できる仲間を築いていきたいと思っています。現在私たちは応急手当の普及・指導者の育成、スポーツ大会のサポート、災害訓練等命に関わる多くのことに前向きに取り組んでいます。私たちは救命を専門に学び職業にするわけではありません。命を救うことは絶対の正義であるという信念のもとに、愛すべき社会、人間関係

を築き、自分の専門分野で活躍することが重要だと確信しています。だからこそ、私たちの活動は今後社会にとって重要な役割を担うと信じています。(ABCRI代表/法学部法律学科三年(現四年)、板垣毅)

業の一つに救命法の指導も値するのではないかと感じております。成蹊の気高い教育理念と救命の持つ崇高な使命に相通ずる本質を感じることができるとは、救命法(AEDも含め)は医療ではありません。誰もが必要のある社会常識です。成蹊が始めたこの小さな取り組みは、やがては社会のモラルに大きな人間愛を育むことでしょうか。多くの人が成蹊の成した蹊を求めていくに違いありません。

二〇〇五年度入学試験状況

(二〇〇五年三月二十二日現在)

【大学】

学部・学科		入学定員	一般入試					AOマルデス入試		
			方式	志願者	受験者	合格者	競争率	志願者	受験者	合格者
経済学部	経済経営学科	435	A*	4,930	4,485	598	7.5	209	206	55
	C*		2,246	2,245	341	6.6				
	計	435		7,176	6,730	939	7.2	209	206	55
理工学部	物質生命理工学科	120	A	707	561	111	5.1	44	42	22
			C	919	918	267	3.4			
	情報科学科	110	A	693	550	91	6.0	29	29	14
			C	866	865	259	3.3			
	エレクトロメカニクス学科	130	A	743	586	94	6.2	34	33	18
			C	962	961	280	3.4			
計	360		4,890	4,441	1,102	4.0	107	104	54	
文学部	英米文学科	120	A	799	720	184	3.9	63	62	15
			C	575	575	120	4.8			
	日本文学科	83	A	742	678	147	4.6	19	17	9
			C	501	501	61	8.2			
	国際文化学科	100	A	1,096	989	178	5.6	68	67	11
			C	682	682	69	9.9			
	現代社会学科	100	A	985	886	169	5.2	45	45	11
			C	562	562	78	7.2			
計	403		5,942	5,593	1,006	5.6	195	191	46	
法学部	法律学科	250	A	1,755	1,528	220	6.9	159	154	32
			C	1,649	1,645	326	5.0			
	政治学科	140	A	1,128	997	157	6.4	60	58	16
			C	1,100	1,100	204	5.4			
計	390		5,632	5,270	907	5.8	219	212	48	
大学計		1,588		23,640	22,034	3,954	5.6	730	713	203

* 経済学部A方式は「地歴公民型」と「数学型」の合計、C方式は「3科目型」と「5科目型」の合計です。

【大学院】

研究科・専攻		博士前期課程			博士後期課程		
		志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
工学研究科	電気電子工学専攻	22	22	18	0	0	0
	応用化学専攻	16	15	14	5	5	5
	機械工学専攻	17	17	14	1	1	1
	情報処理専攻	10	10	10	1	1	1
	物理情報工学専攻	10	10	10	1	1	1
	計	75	74	66	8	8	8
経済学研究科	経済学専攻	6	6	4	0	0	0
法学政治学研究科	法律学専攻	2	2	2	0	0	0
	政治学専攻	6	5	2	0	0	0
	計	8	7	4	0	0	0
文学研究科	英米文学専攻	4	4	3	3	3	2
	日本文学専攻	6	6	6	3	3	1
	社会文化論専攻	7	5	4	0	0	0
	計	17	15	13	6	6	3
経営学研究科	経営学専攻	42	42	24	4	3	0
法務研究科	法務専攻	822	794	90			
大学院計		970	938	201	18	17	11

●役職者

■成蹊学園

理事長	岸 曉
専務理事	加藤 節
総務部長	池田 秀治
財務部長	野田 吉政
健康支援センター長	櫻井 勝
国際教育センター所長	武藤 恭彦
学園情報センター長	涌井 秀治

■成蹊大学

学長	栗田 恵輔
経済学部長	高木新太郎
大学院経済学研究科長	
大学院経営学研究科長	新村 秀一
理工学部長兼工学部長	
大学院工学研究科長	上原 信吾
文学部長	
大学院文学研究科長	中里 明彦
法学部長	
大学院法学政治学研究科長	亀嶋 庸一
大学院法務研究科長	廣部 和也
企画運営部長	伊藤 暉夫
学務部長	鐘川 誠司
就職部長	秋庭 正典
学生相談室長	牟田 悦子
学生部長	渡辺 一衛
図書館長	鈴木日出男
アジア太平洋研究センター所長	鈴木 健二

■成蹊高等学校・中学校

校長	谷 正紀
副校長	吉崎 純二
教頭	両角 雄功
教頭	和田 一誠

■成蹊小学校

校長	岡崎 忠彦
教頭	金納 善明

【高等学校】

学年	募集人員	志願者	合格者
第1学年	約80	308	182
海外帰国子女	若干名	49	15
第2学年編入	若干名	0	0

【中学校】

学年	募集人員	志願者	合格者
第1学年	男子70 女子40	304 145	99 52
国際学級	第1学年	約10	43
	第2学年	若干名	2
	第3学年	若干名	5

【小学校】

学年	募集人員	志願者	合格者
第1学年	112	852	112
国際学級	第4学年	若干名	12
	第5学年	若干名	26
	第6学年	若干名	6

新任学部長略歴

【文学部長】中里 明彦（なかざと あきひこ）

1967年 東京大学教養学部卒業
 1969年 東京大学大学院
 社会学研究科国際関係論専攻修士課程修了
 1978年 成蹊大学文学部助教授
 1984年 成蹊大学文学部教授
 2005年 成蹊大学文学部長
 専門分野 アメリカ史

●学園組織一覧

法人	総務部	総務課	0422-37-3503	理事会に関すること	
大学	財務部	人事課	0422-37-3505	教職員の人事に関すること	
		広報課	0422-37-3517	学園の広報に関すること	
		経理課	0422-37-3508	授業料に関すること	
		管財課	0422-37-3511	学園寮に関すること	
		募金課	0422-37-3941	募金活動に関すること	
		健康支援センター	健康支援センター事務室	0422-37-3518	学園全体の健康管理に関すること
	国際教育センター	国際課	0422-37-3536	留学、国際理解教育に関すること	
	学園情報センター	情報システム課	0422-37-3611	学園のネットワークに関すること	
	企画運営部	企画運営課	0422-37-3531	学長・学部長、公開講座に関すること	
		研究助成課	0422-37-3705	研究助成に関すること	
		入試課	0422-37-3533	大学入試に関すること	
		学務部	授業課	0422-37-3703	授業全般、定期試験、聴講生に関すること
			履修課	0422-37-3553	履修に関すること、卒業証明書発行
就職部		就職進路課	0422-37-3537	就職活動に関すること	
学生相談室			0422-37-3807	充実した学生生活をサポート	
学生部	学生生活課	0422-37-3539	学生の住所、保証人の変更、奨学金、クラブ活動に関すること		
	大学保健室	0422-37-3518	大学生の健康管理に関すること		
図書館		0422-37-3544	図書館の運用・管理		
	アジア太平洋研究センター		0422-37-3549	アジア太平洋地域に関する共同研究の推進	
中学・高等学校	中学・高等学校事務室	0422-37-3849	中学・高等学校に関すること		
小学校	小学校事務室	0422-37-3838	小学校に関すること		

おもな学校行事予定(4月～6月)

	大学	高等学校	中学校	小学校
4月	5(火) 入学式 3/31(木)～9(土) オリエンテーション 2(土) オリエンテーション(法科大学院) 2(土)～8(金) 健康診断 6(水) 授業開始(法科大学院) 11(月) 授業開始(学部・その他研究科)	7(木) 入学式 8(金) 始業式	7(木) 入学式 8(金) 始業式	6(水) 始業式・入学式 28(木) 遠足
5月	31(火) 学内陸上競技大会	13(金) 体育大会 30(月)～6/18(土) 教育実習 30(月)～6/2(木) 中間テスト 遠足	13(金) 遠足 30(月)～6/18(土) 教育実習 25(水)～27(金) 3年中間テスト 30(月)～6/1(水) 1・2年中間テスト 30(月)～6/3(金) 3年修学旅行	28(土) 運動会
6月	22(水) 学内競漕大会(レガッタ)	3(金) 遠足 13(月)～18(土) 文化部発表会	2(木)・3(金) 1・2年イベント・見学会 13(月)～18(土) 文化部発表会	7(火)～10(金) 2年夏の学校(箱根) 18(土) 全校授業参観 27(月) 音楽鑑賞会

「中村春二像」



中村春二先生肖像画



「エロシェンコ氏の像」
(東京国立近代美術館所蔵)

学園史料館に所蔵される「中村春二像」。大正十三年、学園創立者中村春二の死後、重要文化財「エロシェンコ氏の像」(東京国立近代美術館所蔵)などで知られる明治大正期の偉才の画家・中村春二が描いた作品である。

春二は教育者というかたわら、幼少の頃より絵を描くことを好み、水彩画などの作品をいくつが残している。また、芸術家の友人も多く、元来の世話好きの性格から、仲介人として、同じく学園の創立者の一人である今村繁三の支援する画家たちの面倒を引き受けていた。春二もまた春二を通して今村の援助を受けていた画家の一人であった。結核を患い、新宿中村屋の娘俊子との失恋に悩む春二は屈強な肉体と精神の持ち主である春二を慕い、精神的兄として絶大な信頼を寄せていた。

その春二が大正十三年二月二十一日、急逝する。病弱であった春二は、かなり前から遺言状を用意しており、作品の全てを今村へ、後始末と不動産の一切の管理を春二に委任することに決めていた。自らの遺産相続人に、とまでしていた人物の突然の死に、春二は強い衝撃を受けた。今村宛の書簡には「今村さんと私との唯一の仲介者、物質や精神上の唯一の相談相手、ともすれば絶望に陥りがちな私の心の唯一の支持者を失って、私は一時的に知れぬ寂しさで自棄の感に打たれました(以下略)」とある。病の床で中村の訃報を聞いた春二は、直ちに筆を取って、写真と記憶のみで一気に「中村春二像」を描き上げた。同時に二枚制作にかかり、一つはガウンを着た温厚な父として、もう一つは強い信念の人として描く計画であったが、前者は完成せずに終わり、後者が春二の妻・小波夫人に贈られたとされる。肖像画の完成後、あとを追うように同年十二月二十四日、春二はこの世を去った。

作品は昭和五十八年、「中村春二記念室」(旧大学二十一号館内、現在は学園史料館内)に移転開設に際し、中村家より学園に寄贈され、現在に至っている。

成蹊学園広報

2005年4月1日 発行 学校法人成蹊学園 総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422)37-3517
URL <http://www.seikei.ac.jp> E-mail koho@jim.seikei.ac.jp

